

特定外来生物

クビアカツヤカミキリ

国内での被害発生状況と、サクラの樹を護る方法

被害分布



2011年 埼玉県で成虫を採取
(国内初確認)
輸入梱包材に幼虫が穿入した
状態で侵入したと推定

2012年 愛知県で樹木が枯死
(国内初被害)

2018年 特定外来生物に指定

2022年現在
13都府県で被害確認

被害樹種



その他、スモモ、アンズなどのバラ科樹木

被害様式

- ・5月半ばから10月まで、幼虫がフラス(木屑+糞)を排出する
- ・被害樹の幹は、数年にわたり連続的に産卵・穿孔加害を受け数十を超える成虫が羽化した後に枯死する



↑ 樹皮下の幼虫が排出したフラス材に穿入した幼虫が排出したフラス



クビアカツヤカミキリの一生

(2年から3年に一度、成虫になる)



防除法 (1) 伐倒



最も確実な方法
ただし、プロに依頼要

- 上部から伐倒・玉切り
- 成虫脱出期(5月下旬から8月)を避けて実施。
- 伐根にも幼虫がいることが多いので、シーリングや剥皮等の処理を施す。

防除法 (2) 成虫捕殺



出来る方法
ただし、コツが要ります。

- 防鳥ネットを樹幹に巻き付け、こまめな見回りで捕殺。
- 羽化した成虫が網の中で交尾産卵するので注意



防除法 (3) 幼虫駆除



出来る方法
ただし、コツが要ります。

- ① カミキリ用シ用の殺虫剤スプレー(ノズル付き)を用意
- ② 排糞孔から幼虫孔道内のフラスを千枚通しとブラシで除去
- ③ ノズルを差し込み薬液を注入

防除法 (4) 樹幹注入

プロに依頼



- 幹の地際にドリルで穴をあけ、その穴から薬剤を注入
- 全体に行き渡らせ、まとめて駆除
- 枯れてしまった部分は、薬剤が移動しないことに注意



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 関西支所